



2024年（令和6年）12月25日
第1回 藤沢市都市マスタープラン策定協議会
資料1

現行藤沢市都市マスタープラン の概要

1. 藤沢市都市マスタープラン – 策定経緯 –

「都市計画マスタープラン」は、都市計画法第18条の2の規定に基づき策定する「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、概ね20年後の都市の姿を展望して都市計画の基本的方向を定めるものとされています。

「藤沢市都市マスタープラン」は、本市における長期的な都市計画、都市整備等の都市づくりの方向性を示すとともに、法定都市計画の決定や変更の際の指針の役割を果たしてきました。

1957年 「藤沢総合都市計画」策定



1999年 「藤沢市都市マスタープラン」策定



都市計画法の改正及び大きな社会状況変化を受け、
都市形成、都市整備の推進

2011年 「藤沢市都市マスタープラン」改定



人口減少や既存ストックを活用した都市形成及び
都市経営を視野に入れる時期を迎えたことから改定

2018年 「藤沢市都市マスタープラン」部分改定



「立地適正化計画」の制度化など、都市を取り巻く
社会状況等の変化に伴う都市計画への新たな要請が
高まってきたことから変化に対応



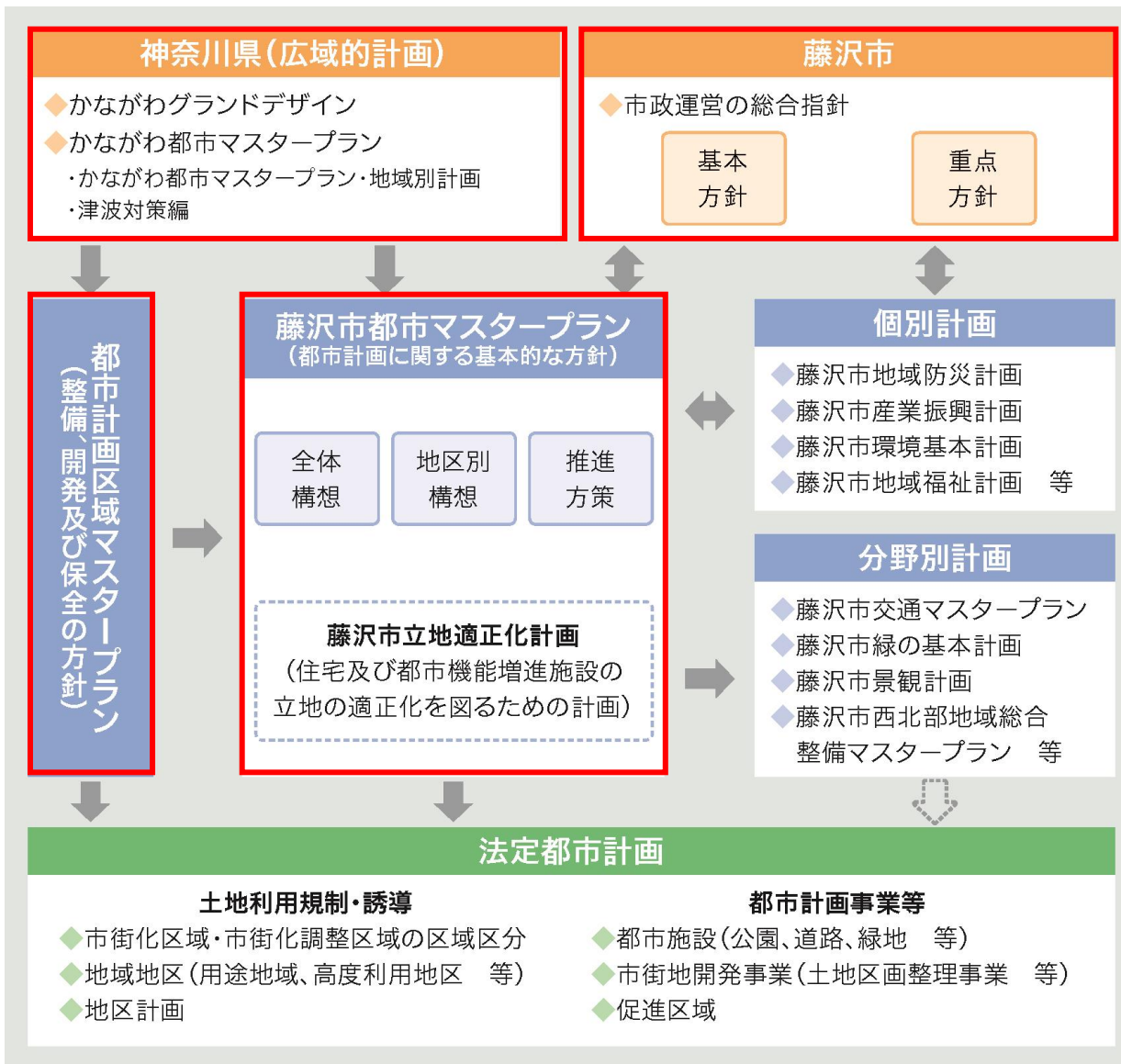
2. 藤沢市都市マスタープラン –位置づけ–

「藤沢市市政運営の総合指針」と整合を図りつつ、概ね20年の中長期を見据えた計画を示しています。

「藤沢市地域防災計画」や「藤沢市産業振興計画」等の個別計画と連携して、総合的かつ計画的に都市づくりを進めています。

「藤沢市交通マスタープラン（現都市交通計画）」や「藤沢市緑の基本計画」等の分野別計画を策定する際の指針となります。

<現行計画における関連図>



3. 藤沢市都市マスタープラン – 目標とする都市 –

将来都市像

「自立するネットワーク都市」

将来都市構造（5つの要素）

～交通体系～【交流・連携の骨格】

鉄(軌)道と主要幹線道路等からなる
東西方向・南北方向の広域連携軸による
ラダー型（はしご型）の交通軸の形成

～都市拠点～【交流の場】

市民生活や産業活動を支え
都市の文化や産業の創出・発信を担う場
ラダー型の交通軸の結節部に配置

～自然空間体系～

海、河川、谷戸、斜面緑地、農地の維持、充実

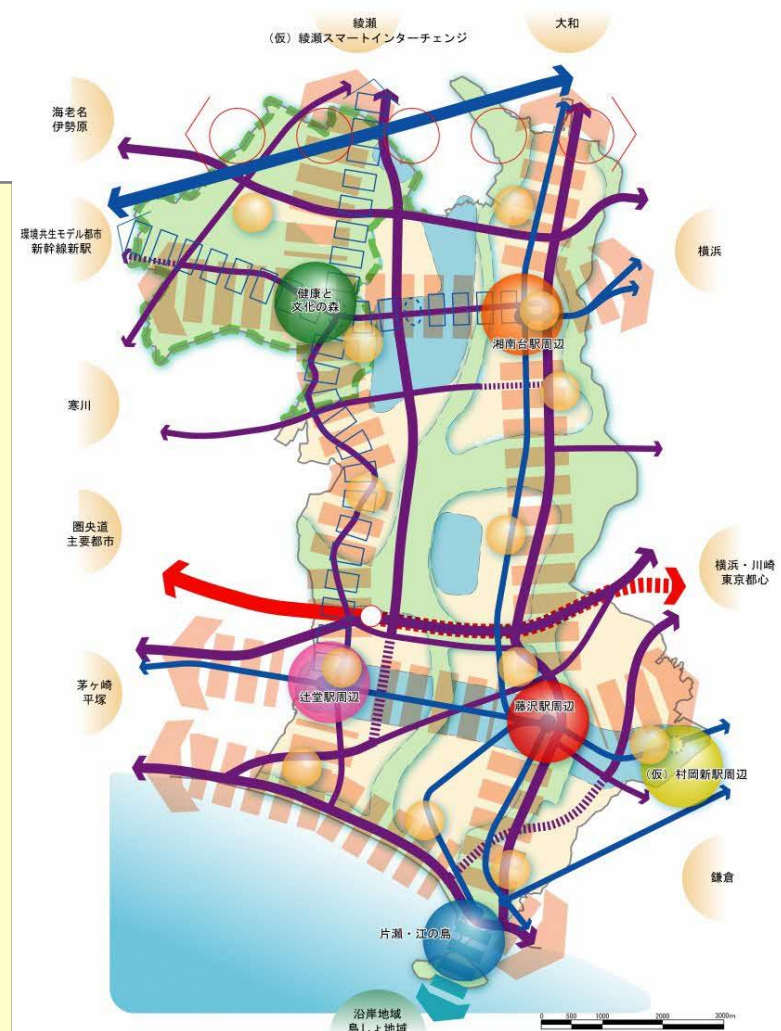
～市街地の構成～

住居系、産業系の市街地の維持と、
新たな市街地の形成

～地区の構成と地区拠点～【市民の身近なまちづくりの単位】

行政サービス・交流等を集積する地区の拠点
市内13地区の市民センター・公民館周辺等を中心に配置

<将来都市構造図>



凡 例		
<交通体系>		
ラダー型交通軸		
鉄(軌)道	鉄(軌)道(計画・構想)	自動車専用道路
自動車専用道路	一般幹線道路(計画・構想)	一般幹線道路
海上交通(計画・構想)		
<拠点配置>		
都市拠点	地区拠点	
<水と緑の骨格>		
水と緑のネットワーク		
<市街地構成>		
住宅系市街地	産業系市街地	西北部地域

4. 藤沢市都市マスタープラン – 都市づくりの基本方針に対応する本計画の特徴 –

都市づくりの基本方針として6つのテーマを設定し都市づくりを進めています。

① 13地区別まちづくり

市民主体のまちづくりや地域マネジメントを推進している中で、今後とも、地区の市民と行政が協働し、成熟社会におけるきめ細やかなまちづくりを進めます。

本計画の特徴：地域別構想の内容がきめ細かく充実している

② 活力を生み出す都市づくり

少子高齢社会、低炭素社会、情報社会を見据え、産業構造の変化に対応するため、これまでの蓄積を基盤に、近隣都市との連携も図りながら、持続的に活力を創出する都市づくりを進めます。

本計画の特徴：
土地利用と産業分野の施策の連携を考慮した計画としている

③ 低炭素社会構築に向けた都市づくり

自然環境の保全や循環型社会の形成と併せて、世界共通の課題である地球環境への負荷低減に向けた低炭素社会の構築に取り組み、環境と共生する都市づくりを進めます。

本計画の特徴：
環境や緑、交通分野の施策との連携を考慮した計画としている

④ 災害に強く安全な都市づくり

災害に強い都市基盤の構築とともに、地域の安全・安心を高める取組により、災害や犯罪の発生を抑え、被害の拡大を最小にする都市づくりを進めます。

本計画の特徴：
防災分野の施策との連携を考慮した計画としている

⑤ 美しさに満ちた都市づくり

成熟した社会において、景観やユニバーサルデザイン、人々の自立的な活動・交流等が創出する「美しさ」により、ゆとりを感じられ、暮らす場として選びたくなる、質の高い都市づくりを進めます。

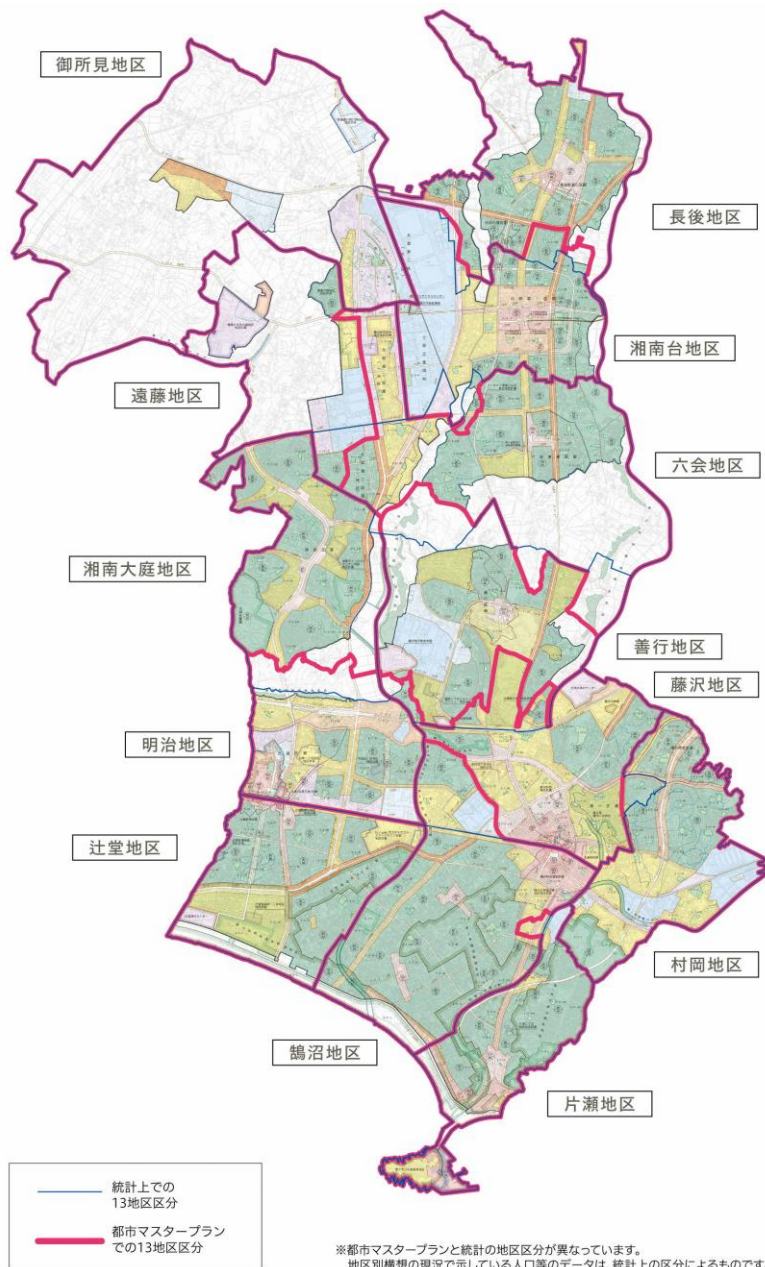
本計画の特徴：
都市景観に限らず、幅広い「美しさ」の概念を踏まえている

⑥ 広域的に連携するネットワークづくり

人、地域、都市それぞれの広域的な連携を支える都市基盤づくりを進めるとともに、広域的な視点からの都市づくりを進めます。

本計画の特徴：
県や周辺市町村との連携・調整を考慮した計画としている

5. 藤沢市都市マスタープラン –地区別構想–



※都市マスタープランと統計の地区区分が異なっています。
地区別構想の現況で示している人口等のデータは、統計上の区分によるものです。

市内の13地区ごとに、現況・課題を整理し、将来像とその実現のための土地利用、交通、水・緑、景観・防災・都市づくり等の分野別の方針を記載しています。

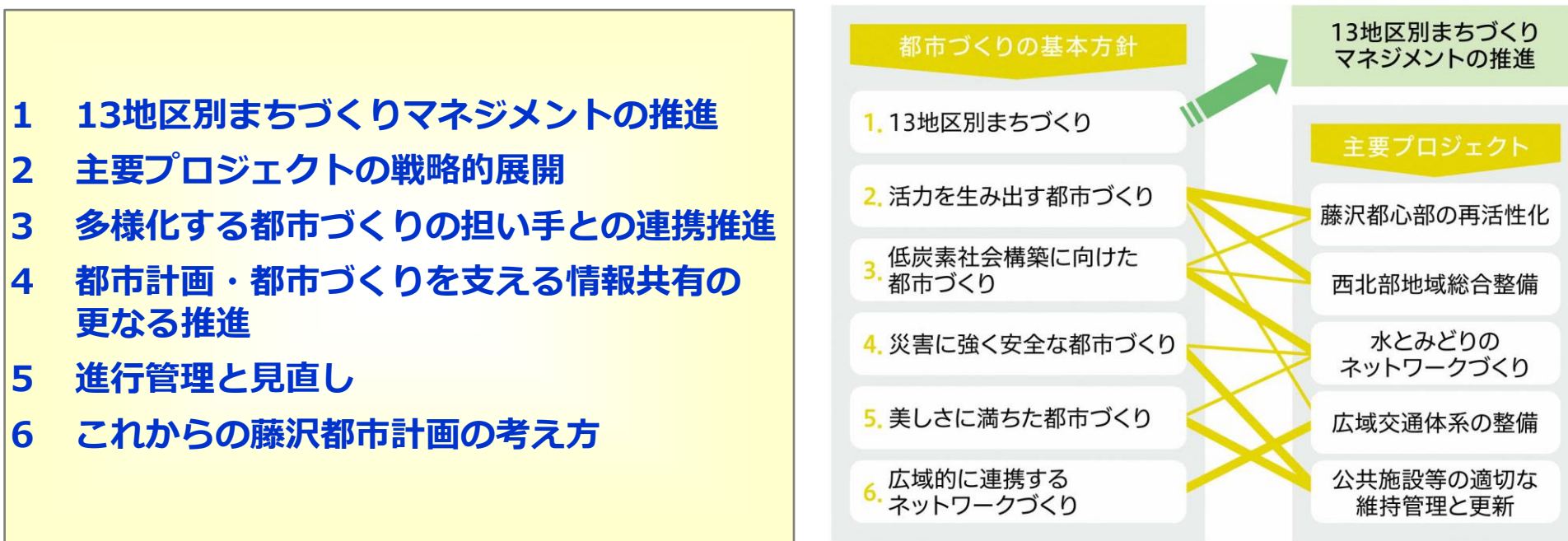
地区別構想の構成

- (1) 現況
- (2) 都市づくり上の課題
- (3) 地区の将来像
2030年の地区の姿
- (4) まちづくりの基本方針
将来像を実現するための地区の課題を踏まえた
基本的な考え方
(土地利用、交通、水・緑、景観・防災・都市づくり)
- (5) 地区将来構想図

本計画の特徴：地区の地域資源を活用した都市づくりについて
網羅的に記載されている

6. 藤沢市都市マスタープラン – 推進方策 –

計画に記載した都市づくりの基本方針について、行政、市民、事業者等、様々な主体の役割分担、連携・協力による推進方策を定め、本計画の実現に向けた取組を進めてまいりました。



藤沢市都市マスタープランの実現に向けた取組

藤沢市都市マスタープラン 進行管理の実施結果

7. 藤沢市都市マスタープラン進行管理 – 総合的な指標 –

総合的な指標の進行管理

都市づくりの基本方針に合わせて、表1に掲げる6方針にそれぞれ2つ、合計12の指標を一括りとして、経年変化が追えるよう設定してしています。

進行管理の結果として、経年の中で様々な変化が内在していることを確認しています。

都市づくりの基本方針に合わせた総合的な指標

都市づくりの基本方針	指標(単位)	分野別計画・出典等
1 13地区別まちづくり	市街化区域内におけるDID(人口集中地区)の割合(%)	立地適正化計画
	市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること。(%)	市民意識調査
2 活力を生み出す都市づくり	商業吸引力(%)	経済センサス
	夜間人口・昼間人口の比率(%)	国勢調査
3 低炭素社会構築に向けた都市づくり	温室効果ガスの削減率(%)	地球温暖化対策実行計画
	鉄道利用者実増加率(%)	統計年報
4 災害に強く安全な都市づくり	住宅の耐震化率(%)	耐震改修促進計画
	都市計画道路整備率(%)	道路整備プログラム
5 美しさに満ちた都市づくり	緑地の確保率(%)	緑の基本計画
	まちと自然環境の調和がとれていること。(%)	市民意識調査
6 広域的に連携するネットワークづくり	最寄り駅まで15分圏域の人口割合(%)	都市交通計画
	年間観光客数(万人)	観光振興計画

8. 藤沢市都市マスタープラン進行管理 – 主要プロジェクト –

主要プロジェクトの進行管理

本計画では、都市づくりの基本方針を実体化する5つの主要プロジェクトを位置付けています。

本計画に位置付ける全てのプロジェクトがそれぞれ進行し、具現化しつつあります。

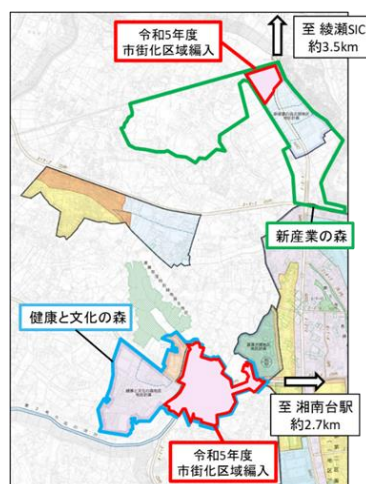
- 1 藤沢都心部の再活性化
- 2 西北部地域総合整備
- 3 水とみどりのネットワークづくり
- 4 広域交通体系の整備
- 5 公共施設等の適切な維持管理と更新



藤沢駅北口駅前広場



藤沢駅東西地下通路



西北部地域総合整備



遠藤笹窪谷公園



藤沢市内及び
周辺域交通体系図



辻堂市民センター